

この問題は、2023年度より新設する「共通テスト一般（C方式）」の個別試験をイメージするため、作成したサンプルであり、実際に出題される問題とは異なります。

[早稲田大学教育学部]

## 国語

(問題)

20××年度

(Sample 試験時間90分)

### 【出題の意図や狙い、入学者に求める力】

国語国文学科では、国語国文学の高い学識をそなえた、人間味豊かな中学校・高等学校の国語科教員の養成ならびに社会の多方面において活躍できる人材の育成を目的としている。記述式を含むC方式入試では、受験生が文学、古典、日本語に幅広い関心を持ち、読解力・思考力・文章力を備えているかを見る。

大問1は、小説の一場面を取り上げ、思考力・判断力・表現力を総合的に評価する問題である。問一から問二では、語句の意味や用法に関する知識を踏まえ、作中の「私」が抱いた違和感を物語の展開に即して読み取る力を問うことを主眼とした。問四では、適切な具体例を挙げるなどしながら、制限字数内で論述を構成し、簡潔な文章にまとめる高度な表現力を求めている。

大問2（古文）は『無名抄』から出題した。教科書などでなじみの深い在原業平、小野小町を配した小文であり、古文に関する基礎知識と本文内容を把握する力を問う。問一は文脈を理解し、内容を理解する力、問二は基礎理解の確認、問三は文学史の基礎的な知識を求めている。

大問3は、明治期の漢文訓読体文語文を素材として、漢文の総合力を問う問題である。漢文訓読体が近代国語の文語文体の一つであること、そしてそこには様々なレベルの漢文的表現が鏤められていることを、この実例を通じて学習して欲しい。入試問題として漢文訓読体の文が出題されることは稀であるが、漢文の基礎が備わっていれば、文の読解ならびに設問内容は決して難解ではないであろう。

(一)

次の文章は、村田沙耶香の小説『変容』の一節である。四〇歳の「私」は、病気の母の看護と家事ができない父の世話をのために勤めていた会社を辞めたが、母が回復したので、ファミリー・レストランのパートタイマーとして一年ぶりに働くことになった。この場面で「私」は、慣れない「私」に親切に仕事を教えてくれる大学生の「雪嶺さん」「高岡くん」と一緒に働いている。

この文章を読んで、あとの問い合わせに答えよ。(75点)

村田 沙耶香 「変容」

日本文藝家協会編『短編ベストコレクション 現代の小説2020』p.636～p.647 収録  
2020年刊行 徳間書店

**問一** 傍線部①「その笑顔が、今はおぞましく感じられた」とあるが、なぜ「私」はそう感じたのか。解答用紙の所定の箇所に記せ。

**問二** 傍線部②「怒りの伝道師」とあるが、ここではどういうことか。解答用紙の所定の箇所に記せ。

**問三** 傍線部③「夫を模倣し、自分にできる精いっぱいの穏やかな声を出した」とあるが、この表現には、「私」のどのような思いが読み取れるか。問題文を根拠にしながら、あなたの考えを解答用紙の所定の箇所に記せ。

**問四** 人間から「怒り」という感情がなくなった場合、社会や人間のあり方にはどのような問題が生じるだろうか。この文章も参考にしながら、あなたの考えを二五〇字以内でまとめ、解答用紙の所定の箇所に記せ。

(二) 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えよ。 (40点)

ある人はいはく、「業平朝臣、一條の後のいまだ只人におはしましける時、盜み取りてゆきけるに、兄人たちに取り返されたるよしいへり。」ことさまはかの物語にいへるがごとくなるにとりて、奪ひ返しける時、兄人たち、その憤りを休めがたくて、業平の朝臣の(注)<sup>①</sup> 誓(ちいみやう)を切りてけり。しかれど、たがためにもよからぬことなれば、人も知らず、心ひとつにのみ思ひて過ぎけるに、業平朝臣、髪生ほさむとて籠りてゐたりけるほど、歌枕(うたこし)とも見むと、数寄にこと寄せて、東の方へゆきにけり。

陸奥の国に至りて、八十島といふ所に宿りたりける夜、野の中に歌の上の句を誦する声あり。その言葉にいはく、『秋風の吹くにつけても(注)あなめあなめ』

これを見るに、かの髑髏の目の穴より、すすきなむ一本生ひ出でたりける。そのすすきの風になびく音のかく聞こえければ、あやしく覚えて、あたりの人にこのことを問ふ。ある人語りていはく、『小野の小町この國に下りて、この所にして命をはりにけり。すなはちかの頭、これなり』といふ。

『小野とはいはじすすき生ひけり』

<sup>B</sup>玉造の小町と小野の小町と同じ人が、あらぬ者かと、人々おぼつかなき」と申して争ひ侍りし時、人の語り侍

りしなり。  
〔無名抄 より〕

(注一) 髪を切りてけり……侮辱や处罚のために業平の髪を切つた。

**問五** 次のA・Bのどちらかの問題を選び、選んだ問題の記号と解答を、解答用紙の所定の箇所に記せ。

**[A] 傍線部A** 「あはれに悲しく覚えければ」の理由について、本文を踏まえて、50字以内で説明せよ。

**(B)** 傍線部B「玉造の小町と小野の小町」の関係について、「ある人」はどう判断していると推測されるか、根拠を示して50字以内で説明せよ。

**六** 傍線部①～③の動作主体を文中から抜き出し、解答用紙の所定の箇所に記せ。

**問七** 次の空欄イ～ハに当てはまる言葉を、漢字を使用して解答用紙の所定の箇所に楷書で記せ。

問題文中の「かの物語」は「イ」を指す。歌物語というジャンルに属する物語で、他には、当代歌人の和歌にまつわる説話や民間伝承が收められている『大和物語』や、平貞文を主人公とする「ロ」などがある。現存している同時代の作り物語には、伝奇的な長編物語である『うつほ物語』や、最古の作り物語と言わ

(三) 次の文は、明治四年から六年にかけ欧米視察のため派遣された岩倉使節団の記録である。これを読んで、あとの間に答えよ。(35点)

「ポルトサイド」ヨリ蘇士マテ、百英里ノ地峽ヲ、郵船ニテ駛行スルヲ得ルハ、僅ニ四年前ヨリノコトニシテ、是ハ仏國ノ學士「レツセフス」氏ニ向ヒテ、謝スヘキナリ、此地ヲ鑿割リテ、大運河ヲ通スルニハ、「レツセフス」氏多年ノ苦慮ヲ鍾メ其ノ積成ニ因テ、実ニ振古希有ノ大偉業ヲ立タリ、抑地中海ト紅海トノ呼吸ヲ、此百英里ノ地峽ニテ阻絶セラレ、歐、細、弗、三洲ノ交易、之方為メニ妨ケラレ<sup>1</sup>、或ハ喜望峰ノ巨濤ヲ冒シ、或ハ埃及ノ赤野黄埃ヲ涉リシコト、數十年ナリシ、古代ヨリ此障礙ヲ除キテ、便利ヲ開カソコトヲ謀ルコト、亦幾許人ノ智力ヲ苦メシラ知ラス、天ノ生民ニ利益ヲ与ヘルヤ、引テ放サス躍然ナリ、人ノ神智氣力、或ハ思フテ至ラス、為テ遂クルアタハスシテ、造化ノ秘ハ、隱レテ世ニ著レス、後人ノ靈智魄力ヲ用フヘキノ地ヲナル、實ニ窮極ナシ

……中略……

蘇士府ハ、港浜ニヨリ、赤野ノ中ニタツ、家屋參差トシテ、堊壁白ク、棠秀テ、煙氣簇簇トシテ、繁花ノ象ハ、人口ノ割ヨリ庶殷ナルカ如シ、是ヨリ西北ニ連リ、一望數十英里、漠トシテ人煙ナク、曠トシテ艸木ナク、野埃浮ミ、夕陽ノ光為ニ黄ナリ、此ヨリ「カイロー」府ニ向フトイフ、天ニ際シ、遙ニ山ヲミス、海ノ東岸ヨリ東南マテモ、亦是茫茫タル赤野ナリ、王昌齡<sup>2</sup>、大漠風塵日色黃ノ句、以テ此地ヲ形容スルヘシ、極東ニ一帶ノ遠山ヲミル、斜ニ東北ニ迤邐シ走ル、此ヲ亞刺伯國ト、埃及國ト分界ノ山トス、此日ハ落照三竿、一隊ノ土人アリ、駱駝ニ跨リ、遙ニ此野ノ黄埃中ヲ行ク、一幅ノ画図ヲミルカ如シ、亦奇眺ナリ

(久米邦武編『特命全權大使米歐回覧美記』第九十五卷「紅海航程ノ記」より)

(注) ポルトサイド・蘇士……ポートサイドとスエズ。それぞれスエズ運河の地中海側の起点と紅海側の起点。駛行……速く移動すること。

生民……民、人民。

參差……高低不ぞろいな様。

堊壁……漆喰を塗った壁面。

烟氣簇簇……煙が群がり生じる様。

漠・曠・茫茫……ともに、広々として果てしない様。

迤邐……曲がりくねつて続く様。

落照三竿……西日が大分傾いたことをいう。

問八 傍線部1「呼吸」に最も近い意味の熟語を次のの中から一つ選び、解答用紙の所定箇所に記せ。

イ 律動 □ 節奏 ハ 機微 ニ 伸縮 ホ 往還

問九 傍線部2「之力為ニ妨ケラレ」と同じ意味の漢文を、次のの中から一つ選び、解答用紙の所定箇所に記せ。  
なお、「之」は「此百英里地峽」を指す。

- イ 此百英里地峺為所妨。
- ロ 為此百英里地峺所妨。
- ハ 為此百英里地峺所妨為。
- ニ 此百英里地峺所妨為。
- ホ 此百英里地峺所為妨。

問十 傍線部3「造化ノ秘ハ……窮極ナシ」の意味として最も適切なものを一つ選び、解答用紙の所定箇所に記せ。

イ 自然の真髓は、隠れていて世の人の目には見えず、現代の人間が全身全靈をつかつたとしても分かることは、結局、ありはしないのだ。

ロ 人間が作り出されたことについての秘密は、現世の人間には知られていないが、後世の人が知識の限りを尽くすことと、分かつてくることは限りないのだ。

ハ 造物主の不可思議な存在は、隠れていて世界には現れず、靈魂の力によることがなければ、究極のところ後代の人間に分かることはないのだ。

二 造物主の神祕は、世俗に表だつて現れることがないが、後世の人々が精魂の限りを尽くして叢智を結集する余地を無限に与えてくれているのだ。

ホ 先人の作り出したものの精髓は、現在、世間には知られていないので、後世の人間が知力を尽くして考えていく可能性が無限にあるのだ。

問十一 傍線部4「繁花ノ象ハ……如シ」を現代語訳し、解答用紙の所定箇所に記せ。

問十二 傍線部5「王昌齡……日色黃ノ句」は、唐の詩人王昌齡「從軍行七首」其五の冒頭一句である。次の詩は同じ連作の其二である。これを読んで、(A) (B) の問い合わせに答えよ。

琵琶起舞換新声 琵琶 起舞すれば 新声に換はるも  
總是關山旧別情 總べて是れ 関山 旧別の情  
撩乱邊愁聽不尽 边愁を撩乱して 聽いて尽くさず  
高高秋月照長城 高高たる秋月 長城を照らす

(注) 琵琶……西域の樂器で異国情緒を搔き立てるものとしてしばしば唐詩に描かれる。

関山……ここでは故郷を指す。

撩乱……かき乱される。

(A) 右の詩の詩型を、解答用紙の所定箇所に漢字四字で記せ。

(B) 傍線部「聽不尽」とは、どういうことを形容したものか。解答用紙の所定箇所に簡潔に説明せよ。